

とみたっこ

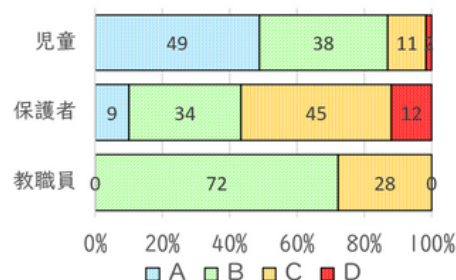
2025

5

いつも、富田小学校の学校教育へのご理解ご協力、ありがとうございます。
昨年度実施させていただいた「学校教育三者評価（児童、保護者、教職員）」より、身の回りを整える力をさらに高めるために、令和7年度も子どもたちと共に頑張っていきたいと思いをします。

13 整理・整頓、掃除など、身の回りを整えようとしている

傾向考察
A+B値【R5=児88% ・保58% ・教60%】
【R6=児87%-1 ・保43%-15 ・教72%】
児童の意識と保護者及び教職員の意識の差が大きい。整理整頓や掃除等のモデルを提示しより分かりやすい指導、児童の主体性を生かす指導が必要となる。



スピーカー スローガン

「自分のものは自分で」
「時間いっぱい黙々（もくもく）掃除」
「公共の物や場所を大切に使う」

の3つのスローガンで、
教育活動の中で心と体を鍛えていきます！



スピーカー 昨年度の様子



2、3学期には、ペア学年で掃除を行う「スマイル掃除」を行いました。上の学年が、掃除の仕方を教えたり、学年問わず一緒に工夫を考えたりと協力して掃除をする習慣ができました。

😊 親子で一緒に！レッツ片付け

ご家庭に帰られてからの片づけや普段の物の整理は、いかがですか？

声をかけても、その時すぐにできなかったり、物を詰められるだけ詰める等…悩みはつきないですね。

学校では、

- ・自分の物は自分の場所へ戻す
- ・使うものと使わないものを分ける
- ・みんなで使う物・場所は、大切に使い、元通りにする

に気を付けて、指導をしています。子どもたちが自ら片付けや掃除に取り組めるように、「仕組み作り」や「習慣化」を行っています。

ご家庭でも、「仕組み作り」と「習慣化」にご協力いただき、子どもたちも保護者の皆さんも楽しく！楽しく！片付けにチャレンジしていただけたらと思います。

今回は、小松 易著「勉強できる子がやっている片付けの習慣」より、いくつかの方法を紹介します。
日々の生活の中で、お部屋全部！は、無理でも、ランドセル置き場だけ！のように、決まったスペースから始めてみるのは、いかがでしょうか。

実際に子どもたちと一緒に片付けやすい方法を検討してみることをオススメいたします◎



小松 易著
「勉強できる子がやっている片付けの習慣」
PHP研究所 127P

🔊 まずは 整理から！

習慣化するためには、「整理」の出す・分ける・減らす・しまうの4つのステップが必要です。時間も手間も最小限で、どんな部屋でもリセットできます。いる・いないを見分けることは、子どもの「取捨選択する力」を養います。今日やること・やらないことをサッと見分けられれば、勉強の効率もアップします。



④もとにあった場所に・残すと決めたものを戻す
・整理整頓は後回し！
・単純に戻すだけ

しまう

①1か所だけ全部 (例)・テーブルの右半分だけ
・棚の1コーナーだけ
・引き出し1段だけ 等

出す

③いないモノを (例)・ゴミとして捨てる
・リサイクルに出す
・中古ショップに売る 等

減らす

②いる・いないに (例)・今使っているか
・今好きかどうか
・今着ているか 等

分ける

😊子どもには まず「しまう」から始めよう！

片付けが必要な場面で「こうやるとあとで楽だよ」「片付けるといいことがあるよ」と体感させることが大切です。

その場でとるべき行動を教えられると、さらに効果があります。

【こんな時はチャンス】

○モノをなくした時

大事なものをなくすのは、子どもにとって大ショック。「今度からちゃんとお家で決めて、そこに戻そうね。」と伝える。

○忘れ物をしたとき

忘れ物が多い子には、「今日忘れ物してない？」と声かけをする。事情を聞いたうえで、「出す」「しまう」をきちんとすれば、もう困らないと伝える。

○人に迷惑をかけたとき

忘れ物をして人に借りたり、借りたものをなくしたときはばつが悪い思いをしているはず。「使ってすぐに元通りにすれば、大丈夫だよ（忘れないよ）」と教えるチャンスです。

※「だから言ったでしょ！」と、
子どもに追い打ちをかけるのはNG！

😊ランドセルでやってみよう！



これからくるゴールデンウィークや夏休み、冬休み等の長期のお休みを使って、いい習慣を身につける機会にできればと思います。
ご協力をお願いいたします。